

令和4年度 経済委員会 県外視察の概要

1 参加委員等

(1) 委員

原 徹臣（委員長），寺井 正邇（副委員長），井川 龍二
喜多 宏思，仁木 啓人，梶原 一哉

2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
8月8日（月）	地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター DX推進センター（東京都江東区）
	株式会社ミスミグループ本社（東京都文京区）
8月9日（火）	株式会社スマートホテルソリューションズ（東京都千代田区）
	ALSOK千葉株式会社 ジビエ工房茂原（千葉県茂原市）
	千葉県農林総合研究センター（千葉県千葉市）
8月10日（水）	木更津市議会（千葉県木更津市）
	パナソニックセンター東京（東京都江東区）

3 調査目的及び視察概要

(1) 地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター DX推進センター （東京都江東区）

（調査目的）

東京都と地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターは、令和2年6月に地方自治体初のローカル5G基地局の免許を取得したのち、同年11月にDX推進センターをテレコムセンター内に整備し、先端技術3分野（5G、IoT、ロボット）の社会実装支援を行いながら、中小企業の製品開発レベルの向上やイノベーションの創出、DXの推進に取り組んでいる。

そこで、本県でも5Gなどの先端技術の研究開発支援や県内企業のDX推進に努めていることから、議会審議の参考とするため、中小企業の5G・IoT・ロボット普及促進事業について調査する。

（視察概要）

中小企業の5G・IoT・ロボット普及促進事業について説明を受けた後、施設を見学しました。



(2) 株式会社ミスミグループ本社（東京都文京区）

（調査目的）

株式会社ミスミグループ本社は、製造業の生産材調達フローを効率化するサービスを提供している。特に平成28年6月に提供が開始された部品調達プラットフォーム「meviy」については、板金や切削部品等の機械加工品の3D設計データをアップロードすることで、AIが即時に自動で見積もり、最短1日での出荷が可能となり、これまで非効率であった製造業の機械部品調達プロセスの大幅な短縮を実現している。また、令和元年には、「meviy」が企業におけるDXの好事例に当たるとして「情報化促進貢献個人等表彰」経済産業大臣賞を受賞している。

そこで、本県の議会審議の参考とするため、部品調達プラットフォーム「meviy」の取組等について調査する。

（視察概要）

部品調達プラットフォーム「meviy」の取組等について説明を受けました。



(3) 株式会社スマートホテルソリューションズ（東京都千代田区）

（調査目的）

株式会社スマートホテルソリューションズは、顔認証システムによるホテルのチェックイン・アウト手続の自動化をはじめ、一目で分かる予約管理システムやお客様の宿泊費・支払方法を自動管理できる機能を備えた新世代のスマートホテルシステム「スマートホテルマネージャー」を開発し、ホテル経営のスマート化を実現している。さらに、これらのノウハウを基盤に、石川県白山市白峰エリアにおいて、現地観光事業者で構成するエリアプラットフォームを構築し、地域内での決済の効率化やアクティビティをつなぐ地域観光モデルの策定に取り組んでおり、これらの取組はDXに取り組む中堅・中小企業等のモデルケースを紹介する、経済産業省の「DXセレクション2022」にも選定されている。

そこで、本県の議会審議の参考とするため、ホテル経営のスマート化及び地域観光事業のDX推進の取組について調査する。

（視察概要）

ホテル経営のスマート化及び地域観光事業のDX推進の取組について説明を受けた後、顔認証システムの体験をしました。



(4) ALSOK千葉株式会社 ジビエ工房茂原（千葉県茂原市）

(調査目的)

野生鳥獣による農作物被害のうち、シカ・イノシシによる被害は全体の約6割に及んでいる。また、捕獲されたものの食肉活用される数は少なく、大半が埋没・焼却処分されているなどの課題がある。ALSOK千葉株式会社では、有害鳥獣対策として必要な機器の販売から設置・管理、駆除までをトータルサポートしており、認定鳥獣捕獲等事業者として認定されていることに加えて、ジビエ利活用の推進の一環として食肉加工場「ジビエ工房茂原」を開設し、捕獲従事者からイノシシ等を回収、解体から食肉加工、検査、保管、商品発送までをジビエ事業として実施している。

そこで、本県の議会審議の参考とするため、農業被害軽減にも寄与するジビエ利活用の取組について調査する。

(視察概要)

有害鳥獣対策サービス及び食肉加工施設「ジビエ工房茂原」の取組について説明を受けた後、施設を見学しました。



(5) 千葉県農林総合研究センター（千葉県千葉市緑区）

(調査目的)

本県では、担い手の減少や高齢化による労働力不足が進行する中、AIやデータ解析等のデジタル技術を活用し、生産の効率化や超省力化を可能とするスマート農業技術の開発と実装に取り組んでいる。

当センターでは、大規模、雇用導入型の経営体を対象として、センシング技術やIoT技術等を利用した経時的なデータの収集や共有、高度な生産管理等を可能とする技術の確立を目指している。

そこで、本県の議会審議の参考とするため、当センターにおけるスマート農業への取組について調査する。

(視察概要)

スマート農業に関する研究について説明を受けた後、施設を見学しました。



(6) 木更津市議会（千葉県木更津市）

(調査目的)

近年の気候変動、生物多様性の低下などの課題に対して、農業においてはその活動に起因する環境負荷の軽減が求められており、これを実現するためには、生産者だけでなく事業者や消費者の理解と協働が必要である。木更津市においては、「人と自然が調和した持続可能なまち（オーガニックなまち）づくり」に向け、市基本計画に有機農業の推進を位置付け、積極的に環境保全型農業に取り組んでいる。

そこで、本県の議会審議の参考とするため、農機メーカーと連携した栽培技術の向上、有機米の学校給食への提供など生産から消費に至る取組について調査する。

(視察概要)

環境保全型農業の取組について説明を受けました。



(7) パナソニックセンター東京（東京都江東区）

(調査目的)

パナソニックセンター東京に設置された仮想都市「未来区」は、パナソニックが描くこれからの便利で快適なくらし、理想の未来を実現するための最先端のアイデアや技術が展示されている施設である。「新しいくらしや働き方を支えるNew Normalソリューション」、「あらゆる現場を見える化し人とモノの動きを最適化」、「世界の人々の生活をより豊かに幸福にする、サステナビリティ活動」などをテーマに様々な取組を紹介している。

そこで、本県の議会審議の参考とするため、製造・流通現場における最適化ソリューションや、車の未来を支える車載デバイスソリューション、ロボティックモビリティなどの最先端技術を活用した取組について調査する。

(視察概要)

仮想都市「未来区」における最先端技術を活用した取組について視察しました。

